

宮崎 文彦 講師

【みやざき ふみひこ】

専門は、政治理論・行政学/公共哲学。哲学や思想と現実の政策をどうやって結びつけるか、といったことを考えています。とともに音楽をはじめとする芸術全般や、聖書研究も私にとって大事な「ライフ・ワーク」です。



●論文の読み方・書き方
a1・a2・c1・c2

私はこの大学で「論文の読み方・書き方」という授業を担当しています。この名称からして皆さんは、何か実用的なこと、役に立つ「テクニック」を教えてくださいの授業と思われるかもしれませんが、でも、そのようなことは2の次、3の次。もっと根本的な「自分の頭で考える」ことを身につける、というのがこの授業の目的です。

「自分の頭で考える」？

大学は中学・高校の次に進む学校と思っている人も多いでしょう。でも、大学での「学び」は、高校までの「勉強」とは全然違います。では何が？ 簡単に言ってしまうと、高校までの勉強は知識を「教えてもらう」ことが中心ですが、大学での学びは知識を活用して自分なりに「考える」ことが中心になります。もちろん、講義で専門的なことを教えてもらうことも大切ですが、それはあくまで前提のお話。学んだ知識を基に「では、あなたはどうか考えるの？」が大学で求められることなのです。

どんなことでも自分の意見を言えればいいの？

では、考えたことなら何でも思いつきでもいいのかといえば、残念ながら、そんなに甘くはありません。友達同士ならいいでしょうけれども、反対の意見を持っている人は全く聞いてくれないでしょう。話を聞いてもらい、納得してもらうためには、自分の意見が説得的であることを相手に伝えなければいけません。そのために大切なのが、客観的な資料・証拠や論理的な思考・表現なのです。論文というものはただ調べたことをまとめたものでも、あるいは自分の意見を一方的に述べただけのものでもありません。

論文もコミュニケーション

自分の意見をきちんと相手に聞いてもらえるようにする、ということはコミュニケーションの基本です。コミュニケーションは、社会に出てからも非常に大切なものですから、単なるテクニックで済まされるものではありません。大学で学んだことは役に立つか？ 大学は受身に「教えてもらう」場ではありません。自ら主体的に「学ぶ」場です。役に立つか立たないかと受身に判断するのではなく、自ら役立つように活用すべきなのです。大切なのは「皆さん自身が」活かせるかどうか。この大学全てを大いに活用して下さい。

大学で学んだことは役に立つ？

受講生のひとこと



私は、この授業の最大の目的は「世間一般に見えていない社会の基礎」について知る事だと思いました。確かにこの授業は直接論文の読み方・書き方の学習にはつながらないかもしれませんが。しかし論文についてではなく論じることについては、他の講義では学べない多くのことを経験しました。

3年 岡島 良太